

「東海大学看護研究」発行にあたって

東海大学では、1974年に8番目の開設学部として医学部が設置され、1975年には付属病院が、神奈川県西部地域随一の規模を有する大学病院として竣工いたしました。現在では、神奈川県の災害医療拠点病院、高度救命センターの役割を担い、1995年には特定機能病院施設の承認を受けております。また東京都渋谷区、八王子の2地点にも医学部付属病院を有し、それぞれ施設の特性に合わせた医療を提供しています。

東海大学医学部付属病院は地域住民の健康を守る使命を発揮するため、看護部では総計1500人以上の看護スタッフが配備され、数多くの専門看護師や認定看護師による高度な専門看護実践を提供しています。患者さん、またはそのご家族の生活状況を確認し、病棟と外来が連携して人々の健康を維持、増進していくため「愛の看護」を提供しています。

東海大学では、1974年、医学部開設と同時に東海大学医学部付属病院の看護師を養成するため、3年制の教育機関、東海大学医療技術短期大学が設立されました。その後、1995年には健康科学部看護学科が伊勢原キャンパスに新規設置され、看護師の育成を目的とした4年制大学が誕生しました。1999年には看護専門職者の育成と高等育機関の教員養成を目的に大学院も開設され、専門看護師の育成も開始しました。2023年現在、医療技術短期大学と健康科学部看護学科は閉学され、2018年に新規設置された医学部看護学科として生まれ変わり、看護教育を継続しております。

東海大学は全国でも先駆けて看護教育の高等教育を展開した大学で、多くの卒業生が国内外の臨床、教育、行政等の専門領域で活躍しております。その実績および研究を公表し、広く東海大学の知的財産として蓄積する必要があります。東海大学の看護理念を継承した研究者、実践者、教育者らが、その時代・状況にあわせ人々の多様なニーズに応えられる看護を成果論文として共有することも、専門職としての使命といえるでしょう。

わが国では現在、頻発する自然災害、少子高齢化問題、新興感染症にみまわれ、看護の知と技は社会から必要とされています。人々のより良い健康に寄り添い、支援することが看護の果たすべき役割であることから、東海大学で培われた看護研究の成果を公刊することが、未来の看護のステップになると信じております。

2023年4月1日

東海大学医学部看護学科 編集委員長
井上 玲子